

第40回全日本トライアスロン皆生大会

NO. 36 和田 正志

2019年7月14日(日)第39回全日本トライアスロン皆生大会に、玄海トライアスロンクラブの会員として、FTUの推薦を受け出場させていただき完走することができました。

その時の投稿の最後を次のように締めていました。

『日本トライアスロン発祥の皆生大会は、来年、第40回の記念大会となります。今大会も、開閉会式や支給品などシンプルに無駄を省く工夫がなされていました。時代の進展とともに大会の運営も難しくなると思いますが、末永く大会が継続されることを切に願います。』

2020年、40回大会新型コロナウイルス感染拡大のため開催中止。

2021年、8月実施予定で出場許可通知が届き、参加費も納入しトレーニングに励むも、第5派のために中止の連絡。翌年の出場権は有効で後日、参加費は返金されました。

2022年、大会関係者・開催地のたくさんの方々のご尽力のおかげで、第40回全日本トライアスロン皆生大会が開催され出場することが出来ました。レースの距離もコースもスケジュールも実施方法も工夫と変更がなされ、安全対策と感染対策が徹底されていました。

大会に関わられた全ての方々に感謝、感激、感動の一日。無事に開催しようという関係者の熱い思いが込められたレースでした。



2022年7月16日(土)先に出勤する配偶者の励ましの言葉は「死にさえせんかったら、どうでもいいから」。昔は色んな大会に同行してくれ応援してくれたのに……。膝・腰・肩の痛みと練習不足で不安を抱えての出発に、心もなえそうになりましたが気を取り直して午前8時過ぎに自宅を出発しました。11時30分頃、中国自動車道安佐SAで昼食をとっていると見月夫妻が声をかけて下さいました。皆生大会では毎回会いますが、いつも奥様同伴でうらやましい。

15時から開会行事、競技説明の間に第1回大会優勝者の高石ともやさんのミニコンサートがあり、様々なレースでの思い出や曲にまつわるエピソードなど楽しく聞くことができました。来年で80歳ですが益々お元気で、BIKEの途中では選手一人ひとりに声援を送って下さっていました。

SWIM: 3 km、BIKE: 115 km、RUN: 32 km、1111人の選手とともに明日の健闘を誓い終了しました。



7月17日（日）5時30分、選手用駐車場が3か所とも満車ながらボランティア用の駐車場に運よく駐車できる。会場に近く、場内アナウンスが聞こえ、「本日は、うねりが高くスイムは中止となりました。6.9キロの第1ランを行います」。天気はいいのに……。膝の痛みで全く練習できていないランが2回もあり、しかも合計38.9キロも走らなければならない。一番恐れていた最悪の展開になってしまいテンションが上がリません。最近で走ったのは、筑豊カップの3.4km×2=6.8kmのみ。今回の第1ランより短い！

当初、午前8時から10人ずつ10秒おきのSWIMスタートの予定でしたが、8時30分より約1000人が一斉にランニングになりました。整列してからスタートを待つ間、夏の太陽がジリジリと照りつけ肌を焼き、海につかりたい衝動を覚える。



8時30分、スタートのホーンが鳴る。10秒ほどでスタートラインを跨いだので、割と前の方から走り始めることが出来たことを確認する。左膝が痛み出さないように腰を落とし少し前傾姿勢で走りました。軽く体操とストレッチをただけでウォーミングアップをしていないので、身体のあちこちの動きを感じ、違和感はないか慎重に歩を進め、下りの箇所では膝に負担がかからないように歩き、何とか無事に第1ランをクリア。41分50秒（708位）。

BIKEコースでは、コロナ感染対策のため食料補給は2箇所しかないなので、トランジションの間にゼリー飲料やカロリーメイト等の補給食をしっかり摂って115kmの長旅に出発しました。自転車は距離に対する不安はありませんが、直前まで調整したギアの具合が気がかりでした。案の定、インナーの軽いギアの上から4枚が上手くチェンジできず勾配のきつい上り坂で苦労しましたが、極力アウターのみで回しインナーが一番軽いギアのみで乗り切りました。



今回の食べ物は一人分ずつカップ入り



39回大会のエイドの食べ物

70 km過ぎのエイドでは、自転車を止めしっかり休養とエネルギーを補給。ここでもしっかりと感染対策が施されていました。終盤の強風を伴う激しい雨の中も、似かよった脚力の仲間？ライバル？たちと、抜きつ抜かれつしているうちに通り過ぎ、5時間という自分の想定タイムよりは少し遅かったもののBIKE終了。5時間11分48秒（641位）。

大幅なコース変更でほぼフラットなRUNコースは、海岸沿いのサイクリングロードを利用するため日陰がなく、期待した雨も降らず、熱い暑い32 kmとなりました。5 km過ぎから左膝が痛み出したため、浜辺の草の上を走ったり、屈伸等をしながら、次のエイドまでは歩かないと自分に言い聞かせ、ようやく折り返しに到着。第2ラン16 kmを2時間17分40秒。



残り16kmは走ったり歩いたり、屈伸やストレッチをして膝の痛みを緩和したり、周りの景色や他の選手の様子を確認したり、気分転換を図りながらゴールを目指しました。開会式後の競技説明では救急車の出動を避けるために、選手個々が熱中症対策をして早目の勇気ある行動を呼びかけていましたが、バイクとランの競技中に4回ほど救助されているところを見かけました。

とにかく暑く、エイドでも水が切れたりコップが無くなって、手に飲料を注いでもらっている選手もいました。私は往路の途中からコップに氷を入れて持って走ったので助かりました。



あわよくば、19時にはゴールしたいと思っていましたが、練習不足と加齢による衰えを感じながら19時19分35秒にFINISH。後半の16kmを2時間38分17秒で走りきり、第2ラン32kmは4時間55分57秒。トータル10時間49分35秒(670位)で、3年越しの皆生トライアスロン大会を完走することが出来ました。

ベストアスリート賞の男性は78歳で、10時間55分17秒。私とほとんど変わらないタイムでゴールされていました。他にも老若男女問わず、身体のハンディキャップを持った方も多く出場され、一緒にゴールを目指しました。トライアスロンも素晴らしさ、トライアスロンの醍醐味を再認識できた第40回記念大会でした。

今回もGTCのジャージを着て出場したおかげで、数名の選手から声をかけてもらいました。天草や玄海大会等で同じウェアを来て出場し、クラブのウェアを見かけると、お互いに声を掛け、励まし競い合いながらレースを楽しんでいた頃を思い出しました。

大会当日満19歳以上の健康な男女で、水泳・自転車・マラソン大会等の競技に出場経験があり、スポーツマンとしてのマナーを身に付け、制限時間内に余裕を持って完走できる体力、気力を有すると認められる者。今回の大会については国内在住者に限定します。

皆生大会の参加資格です。年齢の上限はありません。

玄海トライアスロンクラブの皆さん、来年は同じウェアを身に付け、一緒に出場しましょう！